

モノトウ行事

明和町では12月1日の行事として「モノトウ(モノト)」と呼ばれる行事が盛んにおこなわれていました。現在、この行事を行っている地区は少なくなり、食事やお菓子を配るだけとなっています。

モノトウ行事は、もともとは各地区の氏神さんうじがみをおまつりするグループの行事でした。残された資料や聞き取りなどから、かつての行事の様子を考えてみると、

- ①グループに入る資格や、グループ内のルールがある
- ②グループの中で1年ごとに当番が回ってくる
- ③当番の家は、その年の行事を中心に行う
- ④モノトウを行うための田んぼをグループで所有している

といったことが分かっています。

例えば、斎宮地区勝見自治会にはモノトウのグループとして、勝見自治会にあった楠森神社くすのもり、丑寅神社うしとら、栃本神社とちもとそれぞれにグループがあり、別々に行事が行われていました。また、明星地区上野自治会では仲神社のグループとして「オオトウ」と「コトウ」に別れていました。



上野でのモノトウ行事(平成28年(2016年))と関係資料
*上野のモノトウ行事は現在行われていません

江戸時代に村ごとにあった各神社は、その多くが明治時代に統合されてしまいましたが、神社の跡地には石碑が建てられ今でも信仰の対象になっていることがあります。地域の人びとにとって、それぞれの神社が大切な存在であり、氏神の行事であったモノトウが続けられてきたのは、行事を通じて人々が交流することで地域の結びつきが強まり、一致団結して集落を盛り上げていこうとしたためなのかもしれません。

自治会ごとにあった行事や風習がだんだんとなくなっていますが、これからも自分たちの住んでいる集落の交流を大事にしたいですね。昔のまつりの様子について、地域の人に聞き取りをしてみましょう。

明和町が過去に実施したアンケートで モノトウ行事があったと回答した自治会

馬之上、前野、算所、御厨野、小藪、西出、山川、東村、北出、牛葉、竹川、池村、上村、岩内、麻生、勝見、平尾、上野、明星、新茶屋、蓑村、三世古、大堀川新田、赤坂

*他の自治会でも実施されていた可能性もあります。



上野のモノトウのさらに詳しい解説はこちら

キーワード：伝統行事、風習、モノトウ